

| | |
|-----------|---|
| 氏 名 | 川村 敬一 |
| 学 位 の 種 類 | 博士（創造都市） |
| 学 位 記 番 号 | 第 5946 号 |
| 学位授与年月日 | 平成 25 年 3 月 21 日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第 4 条第 2 項 |
| 学 位 論 文 名 | BSO, あるいは CRG の新一般分類表—仮説と論証 |
| 論文審査委員 | 主 査 教 授 北 克一 副 査 教 授 ベンカテッシュ ラガワン 副 査 教 授 中野 秀男 |

論 文 内 容 の 要 旨

第 1 章「序論」では、研究目的、研究の背景、問題提起、著者の仮説と論拠、研究方法と意義、先行研究の 6 つの柱を立て、簡潔に論じている。以下、この順に要旨を述べる。

研究目的については、UNISIST（United Nations Information System in Science and Technology：国連科学技術情報システム）の変換言語として、1973 年～78 年に開発された BSO（Broad System of Ordering：簡略排列体系）が、第二次世界大戦後における図書館分類法の研究をリードしてきた CRG（Classification Research Group, London：英国分類研究グループ）の新一般分類表ではないかとの仮説に立ち、その成立過程、構造的特性、CRG および考案者の分類理論を検証することで、仮説の妥当性を論証する、とした。

研究の背景には、1952 年創立の CRG の最重要課題として新しい一般分類表の開発がある。開発プロジェクトは LA（Library Association：英国図書館協会）の仲立ちにより、NATO（North Atlantic Treaty Organization：北大西洋条約機構）の科学諮問委員会の資金援助を受けて、1963 年に開始された。2 人の CRG 会員が研究助手として専任で研究開発にあたった。しかし、4 年を経過しても新一般分類表は完成することなく、資金が尽きた 1968 年にプロジェクトは立ち消えとなった。報告書は 1969 年に LA より出版され、研究助手の 1 人であるオースチンは、研究の副産物として PRECIS（PREserved Context Index System）を考案した。PRECIS は 1971 年～90 年に BNB（British National Bibliography：英国全国書誌）の主題索引に採用され、最初の 15 年間は世界的な PRECIS ブームが起こった。

問題提起として、PRECIS は分類でなく索引システムであることを指摘する。そして CRG の新一般分類表開発プロジェクトの前途が険しくなった 1967 年、創立会員の 1 人であるミルズは傾倒する米国の BC（Bliss Bibliographic Classification：ブリス書誌分類表）の全面改訂をめざし、英国に BCA（Bliss Classification Association：ブリス分類法協会）を設立した。改訂作業は 1969 年に開始され、1977 年の序説を皮切りに BC2（Bliss Bibliographic Classification, 2nd edition：ブリス書誌分類表、第 2 版）の刊行が開始された。刊行開始から 34 年を経た 2011 年末現在、全 26 巻のうち 14 巻が出揃った。

しかし、2010 年にミルズが 91 歳で他界しており、残り 12 巻の完成には相当の年数を要するばかりでなく、先行きも不透明である。第二次世界大戦後に開発された一般分類表のうち、完全にファセット化されているのは BC2 と BSO である。BSO 委員会の第 2 代委員長コーツが CRG 創立会員の 1 人であることから、この分類表もまた PRECIS および BC2 とともに、CRG の新一般分類表開発活動の流れをくむものとの見方が可能である。しかし、著者によると BSO のこの点に関しては立ち入った研究はなく、一般分類表としての位置づけもなされていない。その原因は、(1) 開発の舞台が UNESCO（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization：ユネスコ）と FID（Federation Internationale d'Information et de Documentation：国際情報ドキュメンテーション連盟）であったこと、および (2) 変換言語としての BSO にのみ関心が集中してきたことによる。

仮説と論拠については、BSO が二つの側面をもつことから説き起こす。BSO は第 1 に UNISIST の変換言語であり、第 2 に簡略ながら完全にファセット化された新しい一般分類表である。そして第 2 の側面に光をあてるとき、以下の論拠から実は CRG の新一般分類表ではないかとの仮説が成り

立つ。

(1) 創立会員（フォスケット、ミルズ、ヴィッカリー）の言説：

- The BSO and BC2 do in many respects reflect the work of CRG. (D.J. Foskett, 1979)
- BSO has been very influential in the development of BC2. (J. Mills, 2004)
- Coates [an original member of CRG] has also played a major part in constructing and testing the Broad System of Ordering, a high level classification system. (B.C. Vickery, 2004)

(2) CRG における BSO の報告と討議内容が CRG Bulletin, Nos. 6&8, 1961&64 に掲載。

(3) BSO と BC2 の相互交渉（上記 (1) の J. Mills の言説を参照）。

(4) BSO は 2000 年に CRG の拠点であるロンドン大学に移管され、現在に至る。

研究方法と意義であるが、1960 年代に NATO の資金援助で開発プロジェクトを立ち上げ、しかし実現できなかった CRG の新一般分類表について、その概要を明らかにする。そして仮説の妥当性が論証されたなら、BSO をその特徴とともに現在入手できる最高の一般分類表として提示する。このことは CRG という 20 世紀最高峰の分類法研究グループの理論的成果と実践の溝を埋めることになる。

先行研究については、著者自身が編纂した英文書誌（BSO – Broad System of Ordering: an international bibliography. Tucson, AZ, University of Arizona Campus Repository, 2011, 102p.）により、皆無であることを確認している。

以下は「序論」に続く各章の概要である。

第 2 章「BSO の成立過程と現在」

1960 年代初頭にフランスで起こった変換言語の発想と研究が、どのような経過をたどり UNISIST 計画に結実したかを述べる。次に BSO が UNESCO と FID の共同企画として発足し、1978 年に完成するまでの紆余曲折を述べる。1980 年代前半の評価実験、同後半の改訂作業と機械化プロジェクト、1990 年以降の維持管理団体の変遷をたどる。BSO は文献量の急激な増大と機械化システムの急速な普及を見越して開発された。しかし、変換言語による文献主題からの相互協力に、人々の理解がいまだ及んでいないことを指摘する。

第 3 章「BSO 分類表の特徴」

理論上、変換言語は中立的な主題コードでよい。それがなぜ BSO のような排列システムつまり分類表になったかを述べる。次に BSO における (1) 主類の選定と順序、(2) 語彙の収録基準、(3) 区分原理のファセット構造、(4) 結合規則、(5) 記号法について述べる。BSO は学問分野と事象のクラスの両方からなり、学際的主題に対応可能である。また、主類の順序が「統合レベルの理論」に基づき、それが全分野に及ぶ同一ファセット構造と相まって、構造上の異種同形性 (isomorphism) を貫いている。

第 4 章「CRG の新一般分類表開発プロジェクト」

1950 年代の CRG はさまざまな分野における専門分類表の開発と記号法の研究で成果をあげた。1960 年代には NATO の資金援助により新一般分類表の開発に乗り出した。プロジェクトは 1963 年～68 年まで続いたが、分類表は完成しなかった。かわりに研究の副産物として PRECIS が考案され、1971 年～90 年に BNB の主題索引に採用された。

この間、創立会員の 1 人であるミルズは 1967 年に BCA 協会を設立した。BC の改訂作業は 1969 年に開始され、1977 年から BC2 (第 2 版) の刊行が開始された。2011 年末現在、全 26 巻のうち 14 巻が刊行されている。

CRG の新一般分類表開発プロジェクトは実現しなかった。この汚名をそそぐためにも、CRG は 1990 年代より BC2 を定期的議題として取り上げ、その改訂方針に従い BCA が作業を進めてきた。こうして BC2 は CRG の新一般分類表として扱われるようになったが、残り 12 巻の完成に相当の年数を要するのは必至である。

第 5 章「CRG 新一般分類表の概要」

NATO の資金援助による CRG 新一般分類表は完成しなかった。1969 年に LA より出版された報告書 (A4 判 130 頁) は 2 部からなる。第 1 部は 1963 年 6 月にロンドンで開催された参加者 23 人の小規模国際会議の会議録 (B5 判 47 頁のパンフレット) の再録 (A4 判 17 頁) である。第 2 部が 2 人の研究助手による研究結果 (A4 判 107 頁) である。第 1 部は 1950 年代からの討議の継承・発展であるが、第 2 部は不明瞭な点が多いとの評価である。この章ではロンドン会議に提出されたコ

ーツ論文「CRG proposals for a new general classification」と会議の声明文「Final statement」、そして「CRG Bulletin」として公表された多量の議事録（minutes）の内容を分析して、新一般分類表の概要を明らかにした。

第6章「CRG 分類表と BSO 分類表の比較対照」

BSO 分類表と前章で明らかになった CRG 分類表の概要について両者の比較対照を行った。比較対照は、(1) 分類の対象、(2) 目的、(3) 規模、(4) 方式、(5) 主類の選定、(6) 主類の順序、(7) 前置クラスの有無、(8) 生産物の扱い、(9) 語彙の収録基準、(10) 区分原理、(11) 関係の種類、(12) 複合主題の合成、(13) 別法、(14) 記号法の 14 項目に及ぶ。両者の完全一致が 7 項目、部分一致が 5 項目、完全不一致が 2 項目であった。完全不一致の 2 項目は BSO に起因する。前置クラスの新設はコーツの分類理論に基づき、別法の除外は変換言語としての必須条件の一つである。その結果、BSO 分類表と CRG 分類表はほぼ瓜二つであることが判明し、仮説の妥当性が論証された。

第7章「BSO における古くて新しい問題の解決」

この章では、従来の一般分類表の考案者たちを悩ませてきた問題に、BSO がどのように取り組んでいるかを考察した。(1) 知識の全体を統括する「統合レベルの理論」の妥当性、(2) 一般分類表における学問分野と事象の役割、(3) 科学と技術の並置と分離の問題、(4) カテゴリー分析と関係分析の程度、(5) 分類における個別化の方法としての人名や国名を表すローマ字記号の是非、(6) 新規項目の予測機能、(7) 詳細分類表 (BC2) と簡略分類表 (BSO) の相互交渉について考察した。

第8章「結論」

本研究の意義と成果は以下のように要約できる。

- (1) 1960 年代に NATO の資金援助を受けて開発プロジェクトを立ち上げ、しかし実現できなかった CRG の新一般分類表について、当時の資料を分析することにより、その概要をはじめて明らかにした。
- (2) 1970 年代に UNESCO と FID が UNISIST の変換言語として開発した BSO が、CRG の新一般分類表ではないかとの仮説に立ち、CRG 分類表と BSO 分類表の概要を 14 項目について比較対照することにより、仮説の妥当性を論証した。
- (3) 仮説の妥当性が論証されたことにより、CRG という 20 世紀最高峰の分類法研究グループがもたらした理論的成果と実践の溝を埋めることができた。

論文審査の結果の要旨

以上のように、本論文は悉皆的に原資料を渉猟し、丹念に読み解き、その作業の中から BSO もまた「CRG の新一般分類表開発活動の流れをくむもの」との問題提起を行い、その帰結である仮説の論証を厳密に進めている。求められる論述対象に対する実証性の高さ、論考の緻密性、考察結果の獨創性等において、優れた論文と評価することができる。その研究成果は分類法研究において必読参考文献となると共に、今後の研究および開発に資する具体的、かつ有効な成果を提示し得た。

よって、本論文の著者は博士（創造都市）の学位を受ける資格を有するものと認める。